

教頭の**小部屋**

2021.3.9 巻の7



「物には心が宿る」卒業していく3年生へ

本校校長は、お上品できれい好きです。机上也書類が整然と並べられています。わたくしはなかなか掃除や整理整頓が苦手です。机上也小物類が散在しています。時折「片付けなよ」という校長先生の視線を感じますが、気づかないふりをして過ごしています。また家のリビングも、ルンバが活躍できないぐらい床に物が置いてあります。家電量販店に行くと「あなたのうちで活躍させてよ」というルンバの視線を感じますが、「ごめん、無理」と…。すいません。そんな話はどうでもいいですね。

さて、学校では卒業式を目前に控えた3年生が、奉仕作業をしてくれました。3年間生活してきた校舎には、その時々思い出があることでしょう。思いを込めて、校舎や体育館、グラウンドの掃除をする3年生の姿は、後輩たちの目にも焼き付いたはずですよ。

話は変わりますが、私たち保護者が自分の子どもに物を買って与えるときに、親はその物を使う子どもの姿を思い浮かべます。小学校に入学するときにはランドセルや学習机。中学校に入学するときは、真新しい制服を着て登校するあなたの姿を。また、部活動のユニフォームを着て活動する姿。休憩中に水筒でお茶を飲む姿。タオルで汗を拭く姿。新しいノートやペンを使って授業を受けている姿。時にはそんな姿を思い浮かべ、「フッフ…」と笑みを浮かべたりもします。あなたの身の回りの物には「がんばれ!」「健やかに育て!」という保護者の愛や思いが詰まっているのです。みんなは記憶にないでしょうか?幼稚園や保育園に入園したとき、小物ひとつひとつにひらがなで名前が書かれていたことを。物は心です。

物は心。それは校舎も同じ。「ありがとう」と心を込めて磨かれた校舎には、あなたたち卒業生の思いが詰まっていくのです。その思いは、あなたたちの姿を目に焼き付けた在校生たちに受け継がれ、やがて狭間中の「伝統」や「歴史」と名を変えていくのではないのでしょうか。

3年生の皆さん。奉仕作業ご苦労様。狭間中で3年間を駆け抜け、現在、社会で活躍している卒業生たちに続き、素晴らしい大人へと成長してください。

